

熱い!!

# 全国で成果をあげる プロファイnderユーザーの声

「今までの栽培は植物に必要な水も CO2 も肥料も足りなかった!!」伊藤圭様(愛知県田原市 オオバ(シソ)生産者)



地区	愛知県田原市
作物	オオバ(シソ),
台木	—
作型	土耕・周年栽培
施設面積	50a
定植	別々の温室を順番に月一回ペースで定植
定植本数	8 株/m <sup>2</sup>
プロファイnder導入日	2017年10月

**【導入したきっかけは？】**

実は最初に入れた環境モニタリング装置は他社のものでした。それよりもプロファイnderの方がわかりやすいと仲間にすすめられ導入しました。目的はCO2発生機を使うとどのようにCO2が推移しているかを知るためでした。しかし、プロファイnderの画面を確認してもその数値をどう生かせれば良いのかがわかりませんでした。そこで誠和の勉強会に参加して斉藤さんの話を聞いてみると、自分たちがやっていることは真逆だと気づきました。仲間たちと話し合いあそこまで言い切るなら、とにかく一回言うことに当てはめてやってみよう！ということで本格的に環境制御を始めました。正直、自分を含め仲間たちのなかには今よりも出荷量を増やしたい、変わりたいという思いもありました。

**【導入した感想は？】**

以前のオオバは細い木で乾燥気味に作って無理矢理収穫していたイメージです。今は真逆の状態になっています。収量は環境制御に取り組む前に比べ約1.5倍になりました。私だけでなく仲間も皆同じように増収できました。以前は意図的に乾燥気味に作っていたというのがありますが、かん水量は約3倍にはなっていると思います。斉藤さんがいつも言う、光合成の原料である水もCO2も足りなかったのだと実感しました。プロファイnderがあるからこそ自分のハウスのデータを振り返り、勉強会で学んだことを実践できていると感じています。プロファイnder導入前から週に一回は部会の集まりがあり、圃場を巡回したり病気などの気になったことは仲間に聞いたりしていました。現在はそれに加えて同じプロファイnder仲間でもSNSを使って実践の結果やプロファイnderの画面を頻繁に共有するようになりました。自分達の感覚では理解できていないことが多かったと感じています。今は勉強会やセミナーで学んだことをまずはやってみるということにしています。お金も節約ではなく投資を優先しています。以前は既存の設備で重油を使わずにギリギリのところまで栽培していました。最近は天窗を開けて暖房機を動かすことにも躊躇しなくなりました(笑)。以前では考えられないことです。オオバは収穫や梱包に多くの人手が必要な作物なので従業員も3人増やしました。ヒートポンプを使って過湿を抑えることで病気を減らし、経営的にも成果をあげることができました。

**【今後の抱負は？】**

環境制御を深めることで、まだ20%は増収できると感じています。環境制御を始めてから2年しか経っていないので、まだまだ聞いたことを実践している最中です。先日、斉藤さんが圃場を見に来てくれたときに、オオバの徒長が抑えられれば1作の収穫期間を長くして植え替え等の休作期間を減らすことができるとアドバイスをもらいました。今まで液肥は肥料が切れたと感じたときにしか使っていませんでしたが、毎回のかん水時に少量の肥料を加えてみると葉の成長が早く、茎長が抑えられています。時間と資本は必要ですが、とにかくやれることはいっぱいあるというのが現状です。将来的にはオオバの仲間たちと安定して収量を増やし出荷の契約件数を増やして行きたいです。

**【誠和担当者からの一言】**

豊橋営業所の里内です。伊藤さんお忙しい中インタビューを受けていただきありがとうございます。伊藤さんから田原市のオオバ生産者は9名で、その全員が同じ小学校区に住んでいらっしやいます。小さいころからお互いを知っているの意見や情報の交換はスムーズで自然とスタディークラブ(勉強会)が出来上がっている印象です。養液栽培セミナーにも参加くださるなど、他の作物での事例もオオバで考えて実践されています。設備投資や勉強会の意欲など勢いのある皆さんの力になれるようお手伝いできたらと思います。今後ともよろしくお願い致します。